株式会社グランエスペランサは

学ぶ感動・学ぶ環境を

提供しています。

発 行 元

株式会社グランエスペランサ　金沢粋屋事業部

〒633-0047　奈良県桜井市橋本92ー1

ＴＥＬ　０７４４－４７－４３１８（代表）

E-mail info@gran-esperanza.co.jp

URL https://gran-esperanza.co.jp/

ぼくらのひみつきち

言葉でしか伝えられないものがあります。
でも言葉では伝えられないものもあります。
金沢 粋屋では木製品という「品」をとおして、
その「品」はどんな思いが込められているのかを
感じていただきたいのです。
誰が誰のために、どんな思いで作り、
その「品」がいまそこに存在するのか。
誰かの愛情や思いが、自分に注がれているのだ
ということを感じていただきたいです。

金沢粋屋　佐　田　俊　弘

ザァー、ザァー、ザァー
窓の外から雨の音が聞こえてきます。

「ああ、お外で遊びたいのになあ…」
カタツムリが
雨の中を楽しそうに遊んでいるのを見ながら
けんちゃんは言いました。

「五感」を育むとは

目、耳、鼻、口、皮膚を使って感じる5つの感覚を、合わせて五感と言います。それは生き抜く上で必要な情報を得る力であり、行動に大きな影響を与えるなど重要な役割を果たします。

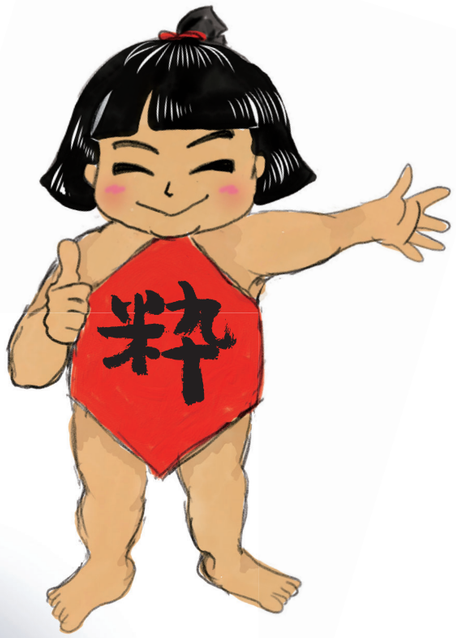
外からの刺激を受けることで脳が活性化し、五感の発達につながると言われています。新しいものを見る、初めての音を聞く、知らない香りを嗅ぐ、未知のものを味わう、これまで触れたことのないものに触る、そのような経験や体験の積み重ねによって、人は自らの感覚を鍛え、生きる力を高めていきます。

ネットワークが発達し、情報を容易に得られるようになった昨今、テレビやスマートフォンを使い、視覚や聴覚に偏って知識を得がち。現在の子どもたちは、幼いうちから視覚・聴覚中心の社会で過ごしているため、意識的に嗅覚・味覚・触覚といった感覚を育む必要があります。匂いから安全なものかどうか、食べた時にえぐ味や苦味はないか、硬さはどうか…経験によって危険なものかどうかを自然に判断できるようになります。

しかし充分に五感が育まれていなければ、誤った判断をしてしまう可能性があります。だからこそ、子どもの頃から五感の全ての力をバランス良く鍛えていくことが大切。体を動かし、風を感じながら物や人に触れ、土や水、紙、クレヨンの香りを感じ、楽しみながら五感を鍛えることができる「遊び」を通して、子どもたちは未来を生き抜く力をつけていくのです。

まだまだ雨が降り続いている
その日の夜、
けんちゃんは夢をみました。

「一緒に遊ぼう！」
おかっぱ頭の子が
けんちゃんを誘います。



かけっこをして、かくれんぼをして
「じゃあ、次はこれで遊ぼう！」

その子がけんちゃんの手をとって
走り出しました。
「待って、待って！」
あわててついていくと…

子どもには「遊び」がとっても大切

プログラミングや英語など、かつての私たちより覚える事が増えた現代の子どもたち。我が子の将来を思うと、幼いうちから勉強させることが最も大切なことでは、と考えがちです。だからこそ、習い事に忙しい子どもが増えているのかも知れません。

しかし「勉強」では得にくい、「遊び」から得られる学びは、子どもたちのさまざまな力を育みます。今まで途中で落ちてしまっていたうんていで、ゴールまでたどり着けた…鬼ごっこで最後まで逃げ切れた…という小さな成功体験が、新しいことに挑戦しようという意欲的な心の育成に繋がります。

また順番を待つ、ルールを決める、役割を分担する、といった約束事を遊びながら守ることで、社会性やコミュニケーション力を養う役割を果たします。

身体面では、すばやく方向転換したり、目の前の障害物を飛び越えたりすることで、体力向上や健康の維持に繋がります。また体を動かす際、周囲の状況の把握や予測など思考・判断を行うことで、脳の運動制御機能や知的機能の発達促進に有効である、と考えられています。

子どもたちは「遊び」を通して、これから生きていくうえで必要なさまざまなことを学んでいきます。私たち大人が「遊び」の場を整えることは、子どもたちの学びを支えることと同じ。とても大切で素敵な役割だと思いませんか。

「おはよう、けんちゃん。もう朝よ」
そこで起こされ、目が覚めました。

「たくさん遊ぶ楽しい夢をみてたのに…」
けんちゃんがそういうと
「なら、正夢ね！今日は遊べるところに行くよ」
「まさゆめ？」

向かった先は、四角いお家。
ドアを開けると
「わあ、公園のにおいがする！」
木のよいかおりが、お部屋いっぱいに広がっています。

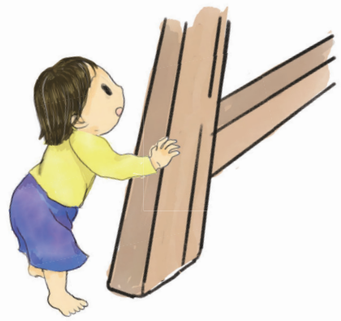
子どもも大人もリラックスできる「香り」の効果

ヨーロッパを中心に広がる、香りを使った療法「アロマテラピー」。日本でも、百貨店やホテルなど心地良い空間づくりのために、香りを使用した場面に出合う機会が増えてきました。

香りは鼻で感じると脳に直接働きかけ、安全かどうかの判断や記憶の呼び戻しといった働き、時に多幸感や鎮痛などの精神神経反応などを促します。私たちは周りにある全てのにおいを嗅いでいるわけではありません。40万種類以上あるといわれる香りのもと「におい分子」のうち、人間がキャッチできるのはわずか3,000～1万種類、犬の100万分の1程度と言われています。それらの香りの中から、快・不快を判断し身体や精神を維持しながら生活をしているのです。

人間が快適に感じる香りの多くは、嗅ぐことで副交感神経に作用し気分を落ち着かせたり、眠りを誘ったりとリラックスさせる効果があります。中でも樹木は、フィットンチッドという有害な微生物や昆虫の活動から自らを守るための成分を持っており、その香りは私たち人間を快い気分にしてくれます。フィットンチッドは、木が製品になったあとでも効果を発揮するため、木の製品はその香りの効果で心のゆとりと安らぎのひとときを提供してくれます。木はストレスにさらされている私たちの、身近な“セラピスト”と言えるかもしれません。

「やあ、いらっしゃい。
今日はこの工房でしっかり遊んでいってね。」
くまさんみたいに大きくて、
やさしい笑顔のおじさんが言いました。
「木のうんていがある！」



登ったり降りたり、ぶらさがったり…
けんちゃんは、もう夢中！
一緒に行った妹のひでちゃんも
ハイハイしながら登ろうとしています。

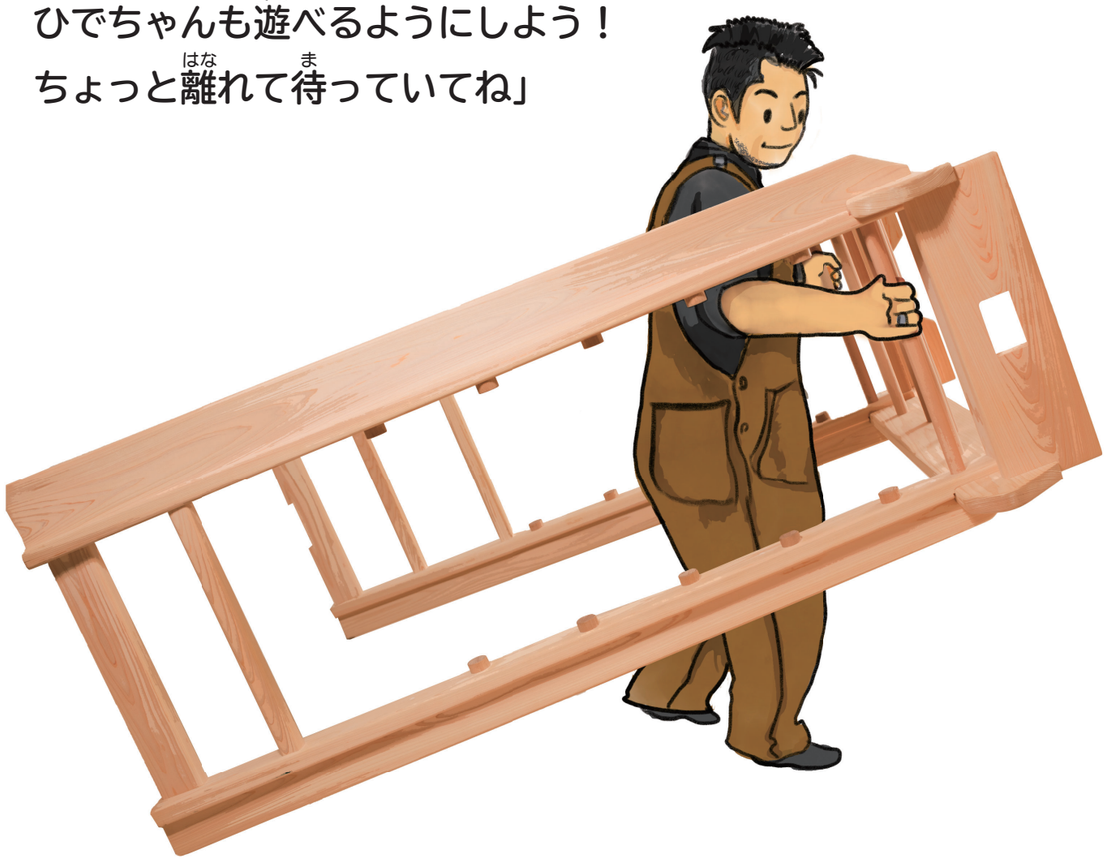
ブレキッズができるまで

ブレキッズは、丸太平均台をご購入くださったお客さまからの「粋屋さんではブレキエーションは作られていないのですか」の一言がキッカケで誕生しました。そのお客さまからブレキエーションとは『うんてい』の事と教えていただき、お話を伺ううちに「では作ってみましょう」と創作魂に火がつきました。さっそく走り書きで最初で最後の設計図を作成し、でき上がったのが試作品第一号です。

試作品第一号はまったくシンプルなものでしたが、子どもたちの身長や成長にあわせて、高さが変えれると良いな、そんな思いから高さを変えられる床パネルにしました。高さだけでなくぶら下がり棒の太さや間隔も変えれるともっと良いな、とぶら下がり棒が2種類の「ダブル」が生まれ、さらに今では幻の製品となりましたが、ぶらさがり棒3種類の「トリプル」、そして弊社オリジナルのぶら下がり棒・径12mmを加えた4種類の「Dスペシャル」と変化していきました。

試作品からDスペシャルの登場までわずか4ヶ月。その期間私の中で「何のために、誰のために」が湧いてきて止まらなかったのです。粋屋の遊具には必ず「何のために、誰のために」があります。そして子どもたちを愛する大人の思いを、代わりに伝えられるようなものを作っていきたいと思っています。

「ひでちゃんは、まだ小さいから危ないよ！」
けんちゃんがそう言うと、おじさんは
「じゃあ、形を変えて
ひでちゃんも遊べるようにしよう！
ちょっと離れて待っていてね」



おじさんは、みるみるうちに
うんていからジャングルジムへ
形を変えていきました！
「すごい！変身した　かっこいい」
すべり台のでき上がり！
けんちゃんとひでちゃんは、すべり台を楽しみました。

ブレキッズの大きさや強度について

　私どものお客さまの多くが、マンションやアパートにお住まいであることや昨今の住宅事情を考えると、できるだけ省スペースで設置できることが必須でした。
一方でブレキッズは子どもたちが「遊ぶ」だけが目的ではありません。チャレンジする相手であり、失敗と成功を繰り返すうちに、自分自身の能力や可能性を広げていく場所でもあります。
時には痛い思いもするでしょう。しかしその経験自体が彼らを次のステップへと導いていくのです。
ならばハードとして可能な限り丈夫で安全であること。ブレキッズが子どもたちのチャレンジを受け止めるために大切なことだと考えています。
建築士の資格を有する元建築大工の経験と知識がこの一台に活かされています。

「スペースは最小限、強度と安全性は最大限」がブレキッズの売りです。

ぶら下がり棒	φ12・18・25・30(mm)
登　り　棒	φ32(mm)
ロ　ー　プ	φ14(mm)

「あれ？」
ふと横を見るとそこには
夢で会った子にそっくりな
絵がはってあります。

「ああ、その絵はね“粋ちゃん”。
この工房を守ってくれているんだよ。」
「あのね、おじさん。
きのうボクの夢に粋ちゃんが出てきて、
一緒に遊んだんだよ！」

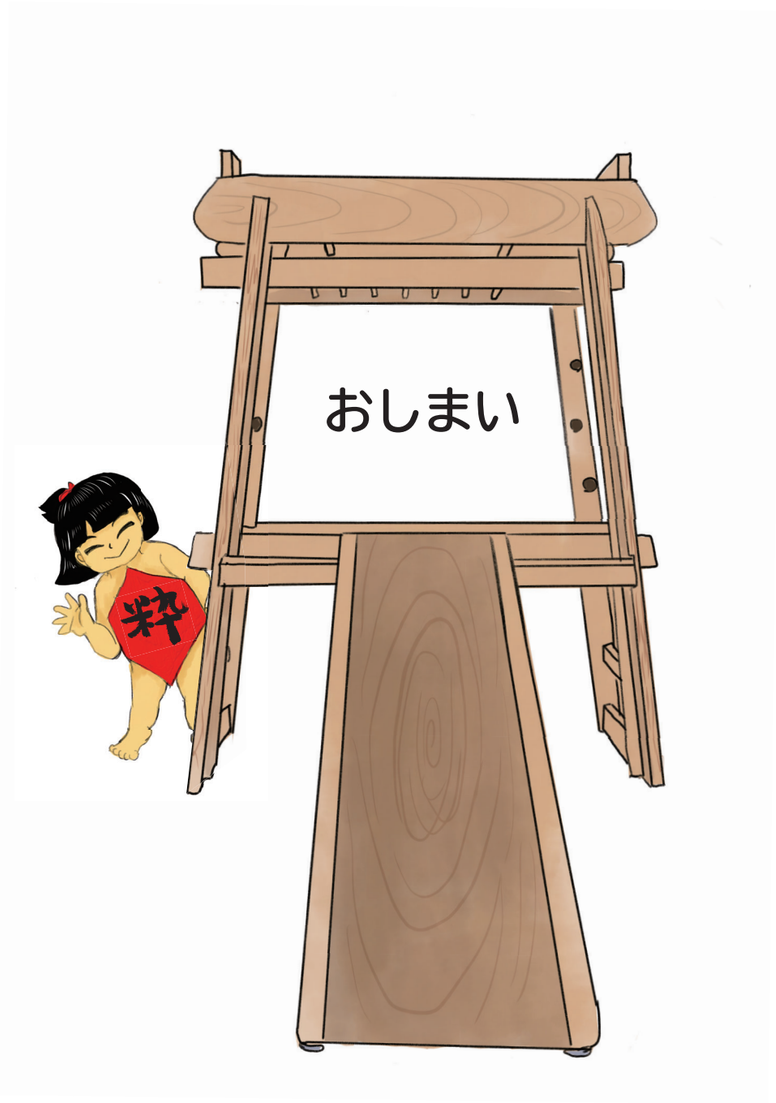
「そうか、なら正夢だね。
今日はこのブレキッズを通して
粋ちゃんとたくさん遊んだもんね」
「ボク、また粋ちゃんと遊びたいな！
この木のジャングルジム、とっても楽しいもん」

ブレキッズの役割

金沢 粋屋は「五感をはぐくむ木製遊具」を制作・販売しておりますが、五感の中でも特に「触覚」に着目しています。何かに直接触れることで起こる、対象物あるいは誰かとの距離をゼロにした時にはじめて「感じる」、自己と他者を認識したり感じたりする重要な感覚です。それは最も大切なのに、昨今の世の中では希薄になりつつある、と私たちは考えています。

人は木に触れると「温もり」「優しさ」「すべすべ感」を感じます。そのためあえて塗装をせずに、木が本来持つ肌触りを子どもたちが感じられるようにしています。
触覚は触れ方によっては痛くも心地よくも感じ、触れる物の材質によっては冷たくも温かくも感じるとても奥深い感覚です。未だすべてが解明されていませんが、人が心を育んでいくためには重要な役割を持つ感覚であると言えるでしょう。

「握る」という動作だけでも、ブレキッズには様々な要素が盛り込まれています。太さや材質、力を加える方向や危険度が変われば、それに応じて力の入り方が変わる…力を入れる前に、全力で握れるかどうかを認識する必要があります。うんてい運動では、タイミングよく握る（力を入れる）離す（力を抜く）を繰り返さなければなりません。登り棒を滑り降りる時は、棒を握った手や棒を挟み込んでいる太腿などをそれぞれ意識し、どのくらい力を入れれば身体をキープできて、どのくらい緩めれば徐々に滑り降りていけるのかを確かめながら、コントロールすることが必要です（固有感覚）。ひとたび身につくと何気なく体を動かすかもしれませんが、複数の筋肉や感覚を上手く連動させる動作なのです。子どもたちはブレキッズで遊ぶことで、五感と運動能力を育み、心と身体を成長させていくことができます。



それから何日か後
けんちゃんのお家に木のジャングルジム“ブレキッズ”と
粋ちゃんの絵がやってきました。
「これでずっと一緒に遊べるね！」
粋ちゃんの絵を見ながら、けんちゃんは笑顔で言いました。

ブレキッズと子どもたちの社会的成長

子どもたちはブレキッズで皆楽しく遊び、気がつくと夢中になります。しかし皆がすぐに遊びはじめるという訳ではなく、興味はあるがなかなか近づけない子、「できない、無理〜」と言い出す子…と様々ですが、その様子からその子がどんな環境で暮らしているのかが垣間見えます。

ブレキッズ自体にも五感を刺激する要素は含まれていますが、親御さんを含めた周りの大人が子どもたちとどう接するかといった「五感の環境」がとても大切です。ブレキッズで遊ぶ子どもたちへの「サポート」が必要なシーンも少なくありません。うんてい、登り棒、ゆらゆら丸太などを遊ぶ子どもをサポートする時、必ずスキンシップが起こります。またどんな言葉をかけてあげるかで、子どもたちの行動は激変します。大人も共に遊び、褒めたり励ますなどの声かけをすることで、子どもたちは大人を信頼し、大人の愛情を感じる大切な時間にもなります。

ブレキッズは子どもたちの「社交場」でもあります。特にたくさんのお友達と遊ぶ場合は、順番を守ったり自分よりも小さい子を気遣うなど「ルール」が生まれます。自分の主張が通らず怒り出す子もいますが、周りと一緒に解決したり、時に大人たちがサポートすることで子どもたちは社会性を身につけていきます。

大人が子どもたちと一緒に楽しんだり、見守りながら性格や特徴を見極めることは、自身の成長にもつながります。子どもたちの言葉や行動の「習慣」は、日頃接する大人たちと築かれます。その積み重ねが「五感の記憶」となり、それを元に成長しながら自らの世界を広げていきます。「五感の環境」を提供すると共に、子どもと大人、子どもと社会の架け橋をつくる。それがブレキッズなのです。

金沢粋屋について

「それ以上でもそれ以下でもないありのまま」

金沢粋屋は元々が建築大工で、座敷やお茶室など和室の造作を請け負っておりました。その技術を活かし、子どもたちにできることはないか…と始めたのが天然丸太平均台の制作です。
私たちは、温もりや命を感じられる「木」だからこそ伝わる何かがあるのだと考え、「木製遊具を通して子どもたちの健全な心と体をはぐくむ」ことを目指し、「本物」という価値観にこだわった商品を提供しています。

粋屋の考える「本物」とは外からみて価値が高い・低いではなく、それ以上でも以下でもない、ありのままということ。背伸びしてそれ以上に見せるでも、へりくだって自らを下げるでもなく、正真正銘「ありのまま」であることを指します。素材である材木の「ありのまま」を認め、引き出すのが私たち粋屋の役割です。立場や対象を変えれば、子どもたちの「ありのまま」を認め、引き出してあげるのが親御さんや周りの大人たちの役割といえるでしょう。
「それ以上でもそれ以下でもないありのまま」

粋屋が伝えたいのは「物」ではなく、「思い」や「心」であり、目に見えないもの、形のないものです。純真無垢な幼少期にこそ「本物」を肌で感じて欲しい、そして「本物」の価値感を、知識でなく肌感覚で理解してもらいたい。そして、「ありのまま」であることが「本物」であり、我々人間もそれが一番素敵なんだということを、未来を担う子どもたちに伝えていくことが、粋屋の役目だと考えています。

「木製遊具を通して子どもたちの健全な心と 体をはぐくむ」それが、金沢粋屋の使命です

事業経歴

1996年　石川県金沢市で「ファンハウス」を屋号とし注文住宅の請け負いを開始。

1997年　ファンハウスと並行し「粋屋」として和室内法造作の請負を開始。

2010年　奈良県大和郡山市に工房を構え、天然丸太平均台の制作を開始。
セルフメンテナンスのためのウッドプラクティコ（木枕・腰木枕）制作開始。

2011年　ブレキエーション制作開始。

2018年　「日本全国に金沢粋屋の遊具を！世界に日本の匠の技を！」を目指し
株式会社グランエスペランサと事業提携。金沢粋屋事業部へ
現在に 至る。

職人略歴

金沢粋屋　佐　田　俊　弘

金沢市出身
中京大学体育学部卒業　保健体育教職員免許取得
大工職人として和風造作に携わる
2010年より「金沢 粋屋」として木製遊具の制作販売を開始
現在に至る
一男一女の父

金沢粋屋 取扱商品

ブレキッズ

天然丸太平均台

ウッドサイズ
木枕

ウッドサイズ
腰木枕

ウッドサイズ
バランスとれっち

ウッドサイズ
ヘソノ

ちぎり椅子

契りまな板

金沢粋屋PV

参考文献：塩田清二著 『〈香り〉はなぜ脳に効くのか　アロマセラピーと先端医療』 NHK出版
下村洋之助著　論文『森林と健康』 群馬県立医療短期大学
文部科学省 「幼児期運動指針」
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm
成田奈緒子監修 「五感を刺激する育児アドバイス」 和光堂　アサヒグループ食品
https://www.wakodo.co.jp/product/special/babyfood/babyfood/global/advice/article01.html

粋ちゃんキャラクター原案：黒田ひろこ
デザイン･イラスト： COSTARTA Design
ライター：有村悠一